

## 第4回 土曜日を活用した教育の在り方検討会議 概要

### 1 日 時

平成24年1月17日（火）午前10時～正午

### 2 場 所

ルビノ京都堀川 アムール

### 3 出席者

委員 山口座長、築山委員、芦田委員、太田委員、小田垣委員、卯瀧委員、加賀爪委員、中條委員、山本委員、橋本委員（14名中10名出席）  
事務局 永野指導部長、小橋教育企画監 大谷総務企画課長 他

### 4 内 容

次第 委員及び座長の紹介  
意見交換・協議  
(1) 事務局説明  
・「検討会議最終まとめ骨子」について  
・「土曜日を活用した教育の在り方について（まとめ案）」について  
・これまでの検討を振り返って  
(2) 今後の検討方法等について

### 5 資 料

「土曜日を活用した教育の在り方について（まとめ案）」  
「土曜日を活用した教育の在り方検討会議」最終まとめ骨子

#### ■事務局からの説明

【「検討会議最終まとめ骨子」について】

『「土曜日を活用した教育の在り方検討会議」最終まとめ骨子』により前回会議で検討を踏まえ、修正した項目について事務局から説明。

【「土曜日を活用した教育の在り方について（まとめ案）」について】

『「土曜日を活用した教育の在り方について（まとめ案）」』に基づき、事務局から説明

#### ■意見、質疑・応答等

・まとめ（案）P2の「府内の公立中学校では約13%が休業日（主に土曜日）に補充的な学習」、P3の「府内公立小学校では約13%が・・・」とされている部分について、「小中学校では約2割」としているまとめ骨子と相違があるがなぜか。また統一すべきと考える。

→まとめ骨子については、平成22年度調査に基づき、平成22年度に府内の小中学校で休業

日に補習や体験的な学習等を計画している割合が約2割であったが、今回のまとめでは、平成23年度調査に基づき、平成22年度の実施実績である約13%とした。実績に基づき、まとめ骨子を約13%に修正することとしたい。

- P2の地域スポーツクラブについては、「総合型地域スポーツクラブ」と正式名称で記載すべきである。他にも「京のまなび教室」などについても括弧をつけるなど表記の統一が必要であると考ええる。
- P10の「学校週5日制の趣旨を踏まえつつ、土曜日に授業等を行うことにより」という箇所について、この会議で議論してきた、学校だけでなく保護者や地域住民も関わる多様で魅力的な教育活動ではなく、「土曜日に国語や数学といった授業をする」という印象を与えかねないかが心配であり、「授業等」を取組や教育活動などに修正すべきである。
- 確かに授業とすると教科・科目を連想される可能性がある。
- P11の「また、平成23年度から・・・」で始まる文章が長い。このため「基本的な考え方が示されるとともに、教科等の・・・」を「基本的な考え方が示されている。併せて教科等の」と区切るべきである。
- 全体的に、地域と地域社会の使い方を統一すべきと考える。  
共同体を示す場合には地域社会、単にその地域を示す場合には地域とすべき。
- 中教審答申では、地域で統一されている。
- P12の「ア 土曜日における地域での体験活動等の充実について」の3つの観点について、語尾を体言止めにするなど統一すべきである。
- P14の「イ 土曜日における学校教育の在り方について」の1行目「各学校において生徒の実態・・・」とあるが、児童生徒にすべきである。
- P20の「エ 府立高校での取組について」、「オ 府立特別支援学校での取組について」は、ア、イ、ウとの統一を図るため「について」を削除すべき
- P21の今後の展開の中に、行政としてのサポート体制の必要性についての記述を加える必要があると考える。

#### ■これまでの検討を振り返って

- これまで、当然のこととして考えてきた学校週5日制について、土曜日の子どもの生活実態や保護者の意識を踏まえて、改めて検討したことは貴重な経験となった。これで終わりではなく、各地域や学校で実践していくことが重要である。子どもや保護者、学校のそれぞれにプラスになるように進めることが必要だと感じている。
- 10年前に学校週5日制が完全実施され、その本質は子どもを家庭や地域社会にかえすというものであったが、この10年間で家庭も地域社会も大きく変容してきている。

今回のまとめは、それに対応したものであると考えている。

- ・ 6月に実施したアンケート調査では、約7割の保護者が土曜日に何かしてほしいと考えていたが、そのニーズは多様である。そのニーズに対応していくためには、学校だけではなく、家庭、地域社会と十分に協働して取り組むことが大切であると感じている。
- ・ この検討が、今日の教育問題を考える上で貴重な機会となった。今後は、各市町教育委員会や学校で具体的にどう取り組んでいくかが大切である。一方で、土曜日を活用した教育活動を進めるためには、地域社会との調整など多くの課題があるが、まず、関係者が集まって十分に議論し、一步を踏み出すことが何より大切であると感じている。
- ・ 学校週5日制の趣旨や子どもの生活実態を踏まえながら土曜日における教育の在り方を検討してきたが、まとめで示した方向性は、保護者が地域住民として地域社会でのつながりをつくるという側面もあり、子どもや学校を中心として地域社会の活性化につながるものであると考えている。

#### ■ 今後の進め方について

今回いただいた意見を整理し、検討会議のまとめを修正させて頂いた上で、最終的には座長と調整し、本会議のまとめとさせていただきたい。

その後、1月下旬から2月上旬には、座長から府教育委員会に提言いただくこととしたい。

「土曜日を活用した教育の在り方検討会議」については、今回を持って最後とさせていただきたい。

#### ■ 教育長謝辞

委員の皆様方には、毎回、大変熱心に御協議いただき、厚く御礼を申し上げます。

それぞれの御意見、あるいはそれぞれの立場からの土曜日における教育の今後の在り方について、様々な視点から多くの貴重な御提言を頂戴したと考えている。

この後、本日の御意見も踏まえて、「まとめ」をいただくことになるが、土曜教育の在り方は、子ども達の教育、あるいは府民全体のライフスタイルそのものにも大きな影響を与えるものであるので、「まとめ」を十分に踏まえながら、来年度しっかりと研究を進めて、丁寧かつ積極的に取り組んいきたいと考えている。

委員の皆様の活発な御協議に感謝を申し上げ、御礼の言葉とさせていただく。